

200.3.26 『地の塩』

四旬節が始まり、ことしの復活祭に受洗を望んでいる方も洗礼志願者として最後の準備に入った。洗礼への道は人それぞれで、その道を志願者と共に歩めることは教会共同体にとっても大きな喜びである▼洗礼の準備は通常、求道者のクラスを年度初め(復活祭後)に編成し、信仰箇条の説明が主にその内容となる。

たいていの場合、週一度のクラスに十分に出席していないと、洗礼を受けることはできない。

また、中途からの出席は好ましくない。この場合、受洗は翌年以降に持ち越されるのが通常ではないだろうか▼しかし、このような画一的な準備クラスでは、受洗希望者の望みをかなえることは容易ではない。一人ひとりの人生のかたちは違っている。一人ひとりに対応できるシステムがあれば、もっと受洗者は増えるだろう。神は一人ひとりにとって一番ふさわしい時に、ふさわしい方法で語りかける。そうしてご自分のもとに引き寄せらるさまは「神の芸術」とでも言える見事なものである▼洗礼の準備期間が問

題にされるようである。

どのくらい準備して受洗したのかが気になるふしがある。ある人が洗礼を受けたとき、その準備期間は、その人のそれまでのすべての時間ではなかるうか。人は既に神の子として生まれている。すべて、みんな。ある時、ある出来事により、それに気付いてイエス・キリストが示してくださった道を歩む決意をするのが受洗の時ではないかと思う。いろいろな準備、いろいろな時がある。(く)